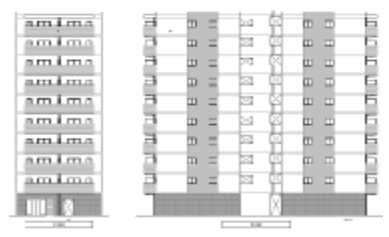


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東大阪市足代北1丁目マンション	階数	地上10F
建設地	大阪府東大阪市足代北	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	90人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2023年5月25日
敷地面積	710㎡	作成者	酒巻 純平
建築面積	290㎡	確認日	2023年5月26日
延床面積	2,717㎡	確認者	片岡 康



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆ 100%超:☆☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 94%
③上記+②以外の 94%
④上記+ 94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
居住者が過ごし易い環境を確保する為、特に建物外皮熱負荷抑制に配慮し空調効率など省エネ性を高めることで快適な住戸空間になるよう考慮した。		
Q1 室内環境 窓を適所にとることによって、通風ならびに自然換気を考慮した。 内装材の選定にあたっては、ホルムアルデヒド等による空気質汚染をおこさない材料を選定した。	Q2 サービス性能 部品・部材の耐用年数を考慮し、住戸内の間仕切り壁は木軸とすることで空間の可変性を高め、ソフト・ハードの両面より空間の快適性を実現した	Q3 室外環境(敷地内) 植栽によって沿道の線の連続性を確保、またオープンスペースを確保することにより、都市空間の活動上のアメニティを向上した。一方、隣地との境はH=1.6mの目隠しフェンスにして防犯性・防炎性を図った。
LR1 エネルギー 住戸部の断熱性能について、全住戸において断熱性能等級5相当の性能を確保した。 また、一次エネルギー消費量についても住棟で等級5相当としている。	LR2 資源・マテリアル 節水による水資源保護や省エネ性の観点から、洋風大便器について節水性能4.8L(大洗浄時)となる器具を採用し無駄な流出をしよう節水効果を考慮した。	LR3 敷地外環境 自転車置き場を確保する事により利用者の利便性を計り、自動車利用による交通負荷を抑制した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R5-0022

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)東大阪市足代北1丁目マンション1号館 新築工事							
	建設地	大阪府東大阪市足代北							
	用途/区分	集合住宅							
【評価結果】	CASBEE 総合評価			B-					
①	CO2削減			3					
②	みどり・ヒート アイランド対策			1					
③	建物の断熱性			5					
④	エネルギー削減			5					
⑤	自然エネルギー直接利用			○					
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

エネルギー消費量の報告

対象外

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.2	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	1
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	1.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	4.8	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		